

なんでやねん

發行責任者 倉橋 忠

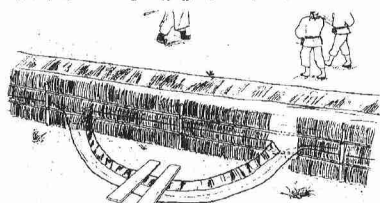
No. 17

貴族も国賓(国の大切な客)も寄生虫に悩まされた飛鳥時代

楽だったのが 庶民の生活は？ 考えてみよう

最古の水洗トイレ

奈良・橿原
藤原京跡



藤原京跡の水洗トイレの復元図（橿原市教委作製）

毎日（奈良）・朝刊
'93・12月23日（木曜日）

奈良県橿原市城崎町の藤原景宗の墓を調査した福原正七は二十日、藤原朝の墓をめぐり、八世紀初めの水洗式、安置式のイレの各一基を盗掘したと発表した。古墳時代前期（二世紀後半）の卑土の竈跡（竈）（同景原代史）出土の木櫛を判断した。遺構図に根拠なく「7世紀初めの遺構も「クリリン」」とを設け、溝や穴の上板を便して使ったらしい。天理大学付随大里参事館の長原正明室員は「この調査の土は粘土状で、大風量の汚生土跡がある」との反対意見を述べた。水洗式は、当時の南北流の御東流で、平方形の溝のすぐ傍で、半円形を呈し、四・六寸、南端に土を築いたと話す。

藤原京の庶民生活▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

出勤は夜明け前、午後は畑仕事

15 家族に日給3×4合

花の都のサラリーマン

基礎の目次の街道に、全国から人や物が集まる「花の都」。だが下級役人は、朝四時から出勤して日給はゴメ四合。伝書パトのように煽毛して畑事に精出さない、十五人も大家族を養えない。

時間は四、五時間で、遅くとも正午には退出できて原則残業なし。手強いや落書きの木簡も多く見つかっており、わりと暇で気楽な役所勤めだったようだ。

た」と横原市教養の竹田正則
技師。南北十五、東西六十
ば（九百平方畝）とみられる
宅地が見つかっており「当初
は規定通りだったが、人口増
で土地が足りなくなったり、
それまでの最下層の役人より
さうした下位のランクがで

では各担当貴族の邸宅で兼用していた役所が、本庁から下
部まですべて宮内へ集められ
た。大内や長官、部長クラス
の要族だけでなく、下っ端の
事務官までが、宮内への出勤
と都内の定住を強いられた。

しかし最近の発掘成果や文獻研究などによれば、慌ただし
い「サラリーマン」生活や深
刻な都市問題が始まったの
も、この都からだったよう
だ。

日本最初の本格的な都「藤原京」（六九四〜七一〇年）の千三百年を記念する「ロマンシア藤原京」がゆかりの奈良県橿原市で開かれ、さくらまつりが古代宮廷音楽、

公地・公民制だから土地は元
全支給された。定めでは、ト
ップ級貴族で五万、六万平方
が、最下級の役人や庶民でも
三千数百平方が、

字長。日給はたった三コメ四合分なの、扶養家族は父母妻のほか弟一家など十五人前後が普通という。「勤めは登前に終わっても、一家を養うためには家庭菜園などに忙しかつたはず。郡の中に……」

に一杯ひっかけ馬鹿をこぼし
ながらワインド・ショックピン
グする光景を想像したくな
る。

産経(東京)・朝刊



イワシの煮付け（左上）や玄米（左下）が藤原京の下級役人の食事メニューだった
—奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

[illegible]

上の新聞記事は、「庶民生活」となっているが、正確には「下級役人」＝下級貴族と考える方が正しいであろう。今日のような庶民的な公務員がいたとは考えにくいからである。

そのように考えると、当時の庶民はどのような食生活をおくっていたのだろうか。少なくとも、庶民の生活は、下級貴族よりもひどい生活だったはず …。